

## C. 罪の確認

「罪」という言葉は、新約聖書の原語・ギリシア語では「ハマルティア」と言いますが、元々は「的外れ」を意味する言葉でした。人間は、神が、目的をもって作った存在ですから、作者である神の目的のために生きるのが本来の在り方です。しかし、人間は、「私の人生」を「私の思い通りに生きたい」という欲求をもち、作者の存在を無視して生きるようになってしまいました。この生き方は、「的外れ」状態、すなわち「罪人」の状態です。そして、この生き方の結果、人は「罪人」の特徴である他者を見下したり、妬んだり、という思いを持つようになり、そこから様々な罪の行為が出てくるのです。

### 1. 罪人とは

一般に「<sup>ざいにん</sup>罪人」というと、法律を犯した犯罪者を意味しますが、聖書の教える「<sup>つみびと</sup>罪人」とは、社会的犯罪のあるなしにかかわらず、神の創造の目的から離れ、自分中心に生きる性質をもっている人間のことを言い、この意味ですべての人は罪人です。

- ①あなたがたの \_\_\_\_\_ が、律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の御国に入れません。（マタイ 5:20 ⇨5:21-22, 27-28 も読んでみましょう）  
※義…正しさ ※律法学者やパリサイ人…行動においては、聖書の律法を一つも破ることなく生活していた
- ② \_\_\_\_\_ はいない。ひとりもない。（ローマ 3:10）

### 2. クリスチャンも罪人

聖書は、すべての人が罪人であり、そのままでは永遠の神の国に入ることはできず、キリストの死による罪の赦しが必要であることを教えます。キリストを信じた者は、罪の赦しを頂き、神の国に入る約束を頂きましたが、罪の性質は、簡単に消えるものではありません。キリストともに歩んでいくことを通し、時間をかけて、少しずつ罪の性質は変えられていきます。

- ①もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を \_\_\_\_\_ いる。（1ヨハネ 1:8）
- ②もし罪を犯したことがないと言うなら、私たちは神を \_\_\_\_\_ とする。（1ヨハネ 1:10）
- ③私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。私には良いことをしたいという \_\_\_\_\_ がいつもあるのに、 \_\_\_\_\_ できないからです。（ローマ 7:18）

#### 確認

私は、自分が神の前に罪人であると認めます。

月 日